

1 研究主題

『自らすすんで学習や活動にとりくむ生徒の育成』
～学ぶ意欲を高める授業づくりの工夫（活用する力の向上をめざして）～

2 主題・副題設定の理由

本校では、4年前より上記の研究主題について、「充実した生徒指導」「確かな学力の向上」「豊かな心の育成」「健康な心身づくり」を柱とする学校教育全体を通して実践を行っている。これまでの本校の生徒の実態をみると、テスト結果よりみられる習熟の差の拡大、受動的な学習態度、学習内容の定着不足、表現力の不足、粘り強く取り組むことができない、などの点があげられる。このような実態を考えると、「自らすすんでとりくむ生徒の育成」を図るためには、生徒一人一人の「関心・意欲・態度を育てる」ことから取り組む必要があると考え、平成19・20年度は副題として、「生徒一人ひとりの関心・意欲・態度を育てる」とした。平成20年度より、石川県の「活用力向上モデル事業」の委嘱を受け、研究の中心を学習活動に移した。平成21年度は、「関心・意欲・態度」を活用する力に結びつけるために、副題を上記のようにかえた。

3 研究仮説

本校の活用する力についての考え方は、狭義では、それぞれの教科での学習を通してつける思考力・判断力・表現力の総合的な力と考える。具体的には、各教科のめあてに即した「～する力」と表現した。

また、広義には、活用する力は教科だけでは育たず、「生徒指導の充実」を基礎とした「確かな学力」「豊かな心の育成」「健康な心身作り」の4つを柱とする本校の教育方針である「生きる力」として育つと考える。

その教科の活用する力は、授業においては、学ぶ意欲を高める授業を工夫することによって育つと考える。関心・意欲を高めることが、疑問や課題を発見する力（思考力・判断力）となり、疑問や課題は解決するための資料・事実を探究する力（思考力・判断力）となり、課題解決はまとめ、表現し、伝える力（表現力）となり、その学習の達成感や満足感は、次の学習への意欲・態度につながり教科の活用する力を育てていくと考える。

さらに、学習活動が十分に生徒のものとなるためには、生徒が自分の感想や意見が発言できるクラス、他の生徒の発言を聞けるクラス、生徒が話し合えるクラスづくりが学習の土台として必要である。その観点から心を育てる道徳の授業も活用する力を育てることにつながると考える。また、中学校での学習だけでなく、地域活動への参加や小学生への発表活動も活用する力を広い意味で育てることにつながると考え、教科の授業を中心としながらも道徳、地域活動、発表活動にも取り組んだ。

4 研究内容与方法（経過）

本校の校内研究体制は、職員全員による校内研究会のもと、「校務分掌」運営組織を「校内研究」の体制として利用してきた。研究推進のために校務委員会に研究推進委員会をおき、「活用力向上モデル授業」の研究については、学習指導部会が研究の中心となり、教科部会、道徳部会、特別活動部会、総合的な学習の時間部会、特別支援教育部会において、活用する力の向上と関連する内容について、研究を進めた。

平成20年度は、まず「各教科のめざす授業」の目標について、教科部会で検討を行った。その内容は以下のとおりである。

	めざす授業	つけたい力
国語科	（学んだ知識や言語能力）を使って（題材）を楽しむ生徒を育てる授業をめざしたい。	学ぶ意欲・表現力
社会科	生徒が自ら適切な資料を選択し、それに基づき社会的事象を見いだす授業をめざしたい。	思考力・判断力
数学科	（学んだ知識や技能）を使って自ら進んで学習に取り組む授業をめざしたい。	問題解決能力
理科	自然の現象や事象について、自分の考えをもち、それを表現する力が育つ授業をめざしたい。	科学的思考力・表現力
英語科	生徒が場面にふさわしい英語を使って意欲的に学習に取り組む授業をめざしたい。	表現力（会話力）
音楽科	生徒が音楽の美しさを求め、感じ、主体的に表現する力が育つ授業をめざしたい。	表現力
保健体育科	生徒が自ら計画を立てて、意欲的に取り組む実践力が育つ授業をめざしたい。	運動に親しみ継続する力
技術家庭科	進んで生活を工夫し創造する態度と知識を習得する授業をめざしたい。	生活に生かす力
美術科	生徒自ら意欲的に取り組み、個が生きる授業をめざしたい。	表現力

以上の教科の中から、平成20年度は「生徒一人ひとりの関心・意欲・態度を育てる。」という副題を受けて、国語科・数学科・英語科・音楽科について、教科の活用する力の向上につながる「関心・意欲を高めるための授業の工夫」について研究授業をおこなった。また、合わせて道徳の研究授業も3つの学年で行い、研究協議の観点として ①導入の工夫②教材の工夫③ワークシートの工夫④手順の工夫⑤教科のめざす授業との関わりから授業整理会を行った。

また、教科部会においては1年を通して、授業の中でさまざまな「関心・意欲を高める工夫」に取り組んだ。

その内容の1部は、以下のとおりである。

国語科	詩の朗読会（1年）、説明文のグループでのマッピング（1年） 群読と発表会（1年）、スピーチメモづくり（1年）、2分割授業（前半リスニング後半読解・前半進出漢字後半暗記、2年）
-----	--

社会科	国名しりとりと国旗づくり（１年）、都道府県テストの継続（１年）、５問復習テストの継続（２年）、写真資料感想発表（１年、３年）
数学科	川北の地名や友だち名を使った導入問題の利用（２年）、少人数授業（２年）スキルの時間導入、ＴＴによるスキル学習
理科	回路組み立て電流電圧計の一人実技テスト（２年）、鳥の手羽先解剖（２年）演示実験をしながらの設問（２年）、野外観察カード発表、野菜による植物観察、アンモニアの噴水実験
英語科	英語の曲のリスニングと翻訳（３年）、英作文の全員印刷（３年）、先生やタレントの写真の利用（１年）、友だち紹介、絵を書いてグループ発表。（１年）先輩へ英語でインタビューしたビデオを紹介（２年）、基本文→ドリル練習→ペア・グループ対話練習→自己表現活動のワークシート工夫（１年）
音楽科	基本の呼吸練習・発声練習・ハーモニー練習で一人ずつ指揮を行う。パートの表現を聴き合う場の設定。
保健体育科	トラック種目とフィールド種目の選択学習とグループ学習
美術科	昨年の作品鑑賞、モデリングペーストでの自由表現と途中発表
特別支援	チラシを見ての買い物学習、おばあさんへ実際に手紙を書く、パソコンを利用した基本文の練習

また、活用する力の向上に結びつくような以下の授業を行った。

国語科	感想や短作文を書かせる。少人数（ペア・グループ）での発表。リスニングを活用した授業。自分への手紙。
社会科	都道府県調べを画用紙にまとめる。新聞記事を読んだ要約と感想（意見）の発表。
数学科	問題解決の手順をノートに書かせる。黒板を使った口頭での発表。
理科	実験レポートの作成。実験方法の図式化。定期テストでの論文問題。身近な現象や事例を定期テストに出題。
英語科	グループでの英作ストーリー。英文日記。ピースメッセージ。英語双六。英語インタビューの聞き取り。ビンゴを利用したドリル的口語練習。国際交流員との異文化理解。
音楽科	合唱パート練習→「曲想の工夫。パートのバランス。どう歌いたいのか。」などを自分たちで話し合いながら、合唱をつくりあげる。
保健体育科	３年間の見通しをたてた授業。目標や計画を立てて、１・２年生と授業に主体的に取り組むことが、学年が上がるにつれて発揮できる。

平成２０年度は、各教科において「関心・意欲・態度を育てる」さまざまな具体的な授業の工夫がみられ、生徒は興味・関心をもって授業に臨んでいた。また、各教科部会で活用する力の向上に結びつく工夫を洗い出すことによって、各教科の活用する力の認識が深まってきた。

そこで、21年度は、活用する力を教科で具体的にしぼり、その力をつけるためにどのような「学ぶ意欲を高める授業づくりの工夫」ができるかということを中心とした。5月は国語科・社会科・道徳で、7月は家庭科・音楽科で、9月は数学科・理科・英語科で研究授業を行った。教科共通の視点として、資料・事実の探究においては、【学び合いの場の設定】を視点とした。また、課題解決の表現・伝達としては、【言語活動の充実】を視点とし、研究を進めまとめていくことにした。

各教科の取り組みは、以下のとおりである。

教科の活用する力	言語活動の充実	学び合いの場
【国語科】 ○学んだ知識、言語能力を使って表現する力	・語彙力を豊かにするために漢字練習や語句の意味調べなどの基本事項をしっかり行う時間を確保する。 ・発表する場、表現する場を設定する。	・グループ活動やペア活動を適宜取り入れ自分の作品を評価し合う。 ・書いた作品を班内で見せ合い、アドバイスを書いてもらい、それをもとに校正したり、友人の作品からもよい点を吸収したりする。 ・グループから全体の場合へ表現の場を広げる。
【社会科】 ○資料を活用する力 ○レポートや発表で自分の意見をまとめる力	・感想、読み取り、説明を文章で適切に表すことができるようにする。	・全員がレポートの発表を行う。 ・黒板を使った発表の機会を増やす。 ・読み取ったことをグループでまとめ発表する。
【数学科】 ○既習事項を利用して、発展的な課題、身の回りの事象に対し数学的に考える力 ○自分の考えを根拠に基づいて分かりやすく伝える力	・授業の中で、生徒自身が考える時間を確保する。途中の考え方（計算方法など）を書いて解答ができる過程を重視する。 ・発表する場を設け、話す側は分かりやすい発表を、聞く側は自分の考えと比較しながら聞く。	・課題を終了した生徒が教える側に回することで質問しやすい雰囲気をつくる。 ・隣同士や班などで小グループをつくり、互いに考え方・解き方を交換し合う場を設ける。
【理科】 ○既習事項を利用して、発展的な課題・身の回りの事象に対し理科的に考える力	・授業の中で、生徒自身が考える場を設定する。発表する場を設け、話す側は分かりやすい発表を、聞く側は自分の考えと比較しながら聞く。 ・「科学的思考力」を高めるために、対照実験やグラフ化を行い、科学の基礎となる考え方を意識させる。	・グループ討議を行うなかで、自分の意見を言える環境をつくる。 ・グループ討議の内容を発表させ、考えをクラス全員で共有する場をもつ。

(理科続き) ○自分の考えを、根拠に基づいて分かりやすく伝える力	・発問に対する「自分の考え」を書かせ、考えたことを文章化する。 ・実験・観察のまとめとして、レポートやスケッチを取り入れ、「表現力」の向上をはかる。	
【英語科】 ○既習事項を利用して、自分のことを文章で表したり、口頭で発表したりできる力	・教科書の Speaking Plus や Multi Plus を利用し、生徒自身が考えて英語で表現する場を多く設定する。 ・Show and Tell やスキットの発表活動を充実させ、人前で多く英語を使用させる。	・英作文やスキットの発表で、相互評価を取り入れ、各生徒に還元する。 ・プリント類の答え合わせや教科書本文の音声確認は、ペアやグループ単位で時間を取り、お互いに教え合う。(生徒が先生役をする。)
【音楽科】 ○音楽の諸要素を感じ取り(知覚、感受)、それを表現する力 ○聴いて、見て、感じたことを歌や言葉で表現する力	・楽曲を聴き、感じたことを自分の言葉で表現したり、根拠をもって批判したりする。	・パート発表や小グループの発表を行い、聴き合う。
【保健体育科】 ○発達の段階や運動の特性や魅力に応じて、運動の一般的原則や事故防止を科学的に理解し、それを活用して運動を実践する力 ○基礎的な運動の技能や知識を活用して、友だちとの学び合いを通して自らの運動の課題を解決しながら自己の能力を高めていく力	・授業の中で、ペアやチームで課題解決の方法を考える場を設定する。 ・授業の感想、反省や次回への目標などを発表する場を設ける。	・主にペアやチームで学習を進め、仲間の観察を通してお互いにアドバイスや補助を行う。 ・ペアやチームで教え合い協力する場を設定する。
【特別支援教育】 ○各教科において具体的な内容を取りあげ、それを実生活に活かす力	・生徒が話したいと思うような受容的な環境をつくる。 ・自分の気持ちを、相手を不快にさせず伝える。 ・手紙で書く力をつける。	・知的障害学級と自閉症情緒障害学級の合同授業を設定する。

5 これまでの研究をとおして明らかになったこと（成果と課題）

本校では、生徒一人一人に学習活動に対する関心・意欲・態度を育てること、さらに「学ぶ意欲を高める授業づくりの工夫」をすることが、生徒の活用する力（思考力、判断力、表現力）、すなわち「生きる力」の育成につながる、と考え、研究をすすめてきた。また、その視点として、①学ぶ意欲の向上②学び合いの場の設定③言語活動の充実という点から研究、実践してきた。

研究の成果の検証については、むずかしい面があるが、生徒のアンケートや授業の様子、感想文やレポート、作品や実験・実技などから判断している。また、5教科については、テストの正答率をたどることもできるが、今研究では徹底できなかった。一部、社会科では文章で答える問題の正答率が上がった（定期テスト）。理科では観察実験問題（電気・化学変化）の正答率が高いとの報告を受けている。

また、平成20年3月と平成21年7月に学習アンケートをとり、アンケートを分析してみると、現2年生については、「基本的な力がついたか。」という問いについては、1年生時より「ついた。」「どちらかといえばついた。」と答えた生徒がすべての教科で6～18%増えている。現3年生については、「授業がわかるか。」という問いについて、「わかる。」「どちらかといえばわかる。」と答えた生徒が、6教科で10～16%増えている。現1年生については、「授業は好き。どちらかといえば好き。」という生徒の人数よりも、「授業がわかる。どちらかといえばわかる。」と答えた人数が多かった。この結果より考えられることは、意欲を高める授業の工夫は、「教科が好き。」であることよりも「授業がわかる。」「基本的な力がつく。」ということに結びついたと考えられる。また一部の教科では「わかる」授業が「思考力」「表現力」に結びつくという結果がみられた。

研究の成果を3つの視点を中心にまとめてみると、

①「学ぶ意欲を高める授業が活用力を育てる」という点については、

○ねらいの達成に向けてのクイズやゲームなどを使った学習活動を行うことで、教科に対する興味づけを行うことができ、生徒は授業に積極的に参加できるようになった。
(全教科)

○身近な題材や、地域教材、ゲストティーチャーを活用することによって、具体的な課題について考えることができるようになった。
(全教科)

○イラストや図・写真を添えたワークシートや学習カードの工夫によって、自己の考えをまとめ表現することができるようになった。
(全教科)

○感想を自由に発表させることによって、特色や新たな疑問を発見することができた。
(社会科)

○ワークシートや学習カードを使っでの目標設定や評価によって、自分の課題が発見さやれ次回への意欲につながった。
(音楽、体育)

②「学び合いの場を設定し、活用力を育てる」という点については、

○グループ学習で相互に評価する授業によって、他者へのアドバイスを考えたり、自分の意見や表現を見直したりすることができた。
(国語科)

○課題を意識し、実験の予想や結果の考察をグループ学習で行うことによって、コミュニケーション能力の向上につながった。
(理科)

○習熟度別少人数授業に「考え、学び合い、発表する場」を設けることによって、数学的な思考につながった。(数学)

○パートや少人数発表は、合唱について話し合い考える力に結びついた。(音楽科)

③「言語活動の充実を通して、活用力を育てる」という点については

○グループ内発表によって、生き生きと意見交換ができた。(国語科)

○手順を示すことによって、表現やまとめがスムーズにできた。(社会科)

○他の生徒や先輩のレポートを手本とすることによって、適切な考察や感想を書くことができた。(理科)

○ペア、グループ活動を増やすこと、Native の英語に触れること、ピースメッセージ作成など、目的をもたせる活動を設定することによって、生徒は積極的に話し、聴き、書くことが増えた。(英語科)

○パートリーダーを中心とし、自分たちで考える練習は、音楽を通しての表現力につながった。ワークシートの工夫や掲示物の工夫は、曲想や雰囲気と言葉で表現するにつながった。(音楽科)

という点があげられている。

以上より、「学ぶ意欲の向上」「学び合いの場の設定」「言語活動の充実」は、教科の活用力の向上につながったと考える。「学ぶ意欲を高める授業」は、生徒一人一人にとって「わかる授業」となり、「わかる授業・考える授業」が「思考力・判断力・表現力」を育てていくのである。

さらに、「道徳の授業づくり」は、伸び伸びと自由に自分の意見が言える学級をつくり、地域の活動への参加は生活に結びついた思考力を高める。また、学習した内容についての小学生への発表の機会の際は表現力を育て、教科の活用力の育成とともに、「自らすすんで学習や活動にとりくむ生徒の育成」へとスパイラルな成長を促している。

しかし、今後の課題として、各教科では以下のことがあげられた。

国語：全体の場合での発表の態度、相手意識を持った発表ができていない。

社会：原因・理由や関係をじっくりと考えることができていない。

数学：「何をどう使ってどうなったのか」という説明の仕方がまだ充分できていない。

理科：科学的な思考がまだ充分ではない。

英語：自分や相手の考えを発展させ、話題を深めて話したり、書いたりする力がまだ弱い。

音楽：感じたことを音楽を通して、積極的に自己表現する力がまだ弱い。

体育：課題解決への手だてをみつけることがまだうまくできない。

全体として、相手を意識した表現や積極的な自己表現がまだできていないと考える。さらに、考え方を深めたり発展させたりすることがまだ充分ではないということが見えてきた。

今後は、これまでの「学ぶ意欲を高める授業づくりの工夫」が「わかる授業・考える授業」に結びつき、「活用力」を向上させているという成果をもとに、「思考力」をさらに伸ばすための手だてや工夫、「考えさせる場」をどのように設定するかということをも視点として、教科の活用力の向上を図りたい。そのことが「確かな学力」を向上させ「自らすすんで学習や活動にとりくむ生徒」を育て、生徒に「生きる力」をつけていくと考えている。